



西田 睦
琉球大学 学長

キャンパス環境改善・SDGs 達成への貢献と 「琉大トランスフォーメーション (RX)」 推進プロジェクト

『琉球大学環境報告書2022』を手に取っていただき、ありがとうございます。本誌は、2021年度における本学の教職員および学生による教育・学修、研究、社会貢献などの諸活動を通じた環境配慮、キャンパスマネジメント、そしてSDGs達成への取組を、広く関係者に報告することを目的に作成されました。巻頭にあたって、いま力を入れつつある「琉大トランスフォーメーション (RX)」推進プロジェクトをご紹介します、これとキャンパス環境改善等との関連について述べたいと思います。

不確実性・不安定性が高まる世界

いま世界は感染症拡大の長期化、異常気象、戦争の危機など、不安な状況になっています。また日本では少子高齢化がますます進行し、社会の活力の低下が心配されています。一方、情報通信技術 (ICT) の発展によるデジタル化が、著しいスピードで進んでいます。これが適切に活用されるならば、社会のあり方、文明のあり方を大きく変える可能性を秘めています。

いま日本のさまざまところで、この変化をよい方向に向けようとする、いわゆる「デジタルトランスフォーメーション (DX)」が取り組まれています。大学には、この変革を担うことのできる人材を育成すること、そして大学自体をより学びやすく働きやすい場へと変えていくことが求められています。

琉大トランスフォーメーション (RX) 推進プロジェクト

そこで本学は、2022年8月に「琉大トランスフォーメーション (RX)」推進を宣言し、9月には「RX推進基本方針」を制定しました。RXでは、さまざまな情報のデジタル化とそれによる業

務の効率化などにとどまらず、教育・学修や仕事のやり方やマインドを変革すること、ひいては構成員のワークライフバランスを向上させ、皆がモチベーション高く最大限のパフォーマンスを発揮できるように本学が前進することを目指しています。

もう少し具体的に述べましょう。RXにおいては、これまで個人・部署・部局単位で行われてきたデジタル化による業務改善を、教職協働による横断的な検討の場において、試行的な取り組みを素早く繰り返す「アジャイル型」の手法により進めます。皆で知恵を出し合うことで、担当者だけでは見いだせなかったよりよい「解」にたどり着くことを目指します。このような経験を積むことにより、状況の変化に迅速かつ積極的に対応できるマインドと力を持った組織へと自らを変革していきたいと考えています。

RXと環境配慮・SDGs達成への貢献

このRX推進プロジェクトは、環境配慮・キャンパスマネジメント・SDGs達成へ貢献する取組に親和性が高いと考えています。使用電力量などの環境負荷の低減や施設の維持管理コストの削減などは、定量的な分析が欠かせないもので、RX推進がとくに効果的に働く分野です。

さらに社会全体としても、DXによる環境対策の進展やSDGs推進への期待は大きいところです。RX推進で得られる知見や育成された人材は、環境負荷の軽減が求められている社会に、きっと大きな貢献をすることになると確信しています。

琉球大学は開学以来、地域貢献の精神を堅持してきました。変化が激しい昨今の状況においても、的確に即応し、上記のような活動を通じて、引き続き地域社会の持続可能性の向上への責任を果たしていく所存です。ご理解、ご支援をよろしくお願いいたします。